



内閣府（防災担当）

火山防災対策会議（第12回） 議事要旨

1. 日 時

令和2年9月17日（木）10:00～12:00

2. 出席者

藤井座長、池谷、石原、清水、三浦、森田、青柳（代理：内田）、柳（代理：井上）、荻澤（代理：荒竹）、生川（代理：鎌田）、今井、明野、森、加藤（代理：楠）、中川（代理：児島）、藤田、伊藤、富田各委員
他

3. 議 題

- (1) 最近の火山防災対策の取組状況
- (2) 火山防災に係る調査企画委員会からの報告
「ハザード予測（影響範囲）」に資する施策・研究の方向性
- (3) 火山防災対策関係の令和3年度概算要求について（非公開）

4. 議事要旨

- 各委員及び事務局（内閣府）から、最近の火山防災対策の取組状況等について説明し、情報共有を図るとともに、事務局（内閣府）から「御嶽山噴火を踏まえた今後の火山防災対策の推進について（報告）」において示された実施すべき取組の状況について説明し、意見交換を行った。
- 森田委員から、火山防災に係る調査企画委員会がとりまとめた「ハザード予測（影響範囲）」に資する施策・研究の方向性（報告）」について説明し、意見交換を行った。

○各委員及び事務局（内閣府）から、令和3年度概算要求内容（案）について説明し、情報共有を図るとともに、森田委員から、火山防災に係る調査企画委員会における関係機関の令和3年度概算要求における施策・研究の連携のための取組結果について説明し、意見交換を行った。

○各委員より頂いた主なご意見は下記のとおり。

<最近の火山防災対策の取組状況について>

○「御嶽山の噴火を踏まえた今後の火山防災対策の推進について（報告）」において示された実施すべき取組のうち、国が対応中の項目について、時間がかかるものは各省庁が本質的に取組むべき内容であることを整理し、関係機関の取組状況のとりまとめを終えることを検討してはどうか。

○資料1-2について、最近の火山防災対策の取組状況が一覧にわかりやすくまとめられているが、研究・技術開発については、研究の性質（応用研究か開発研究）を明示する方がわかりやすいのではないか。

<「ハザード予測（影響範囲）」に資する施策・研究の方向性について>

○民間航測会社も地形データを取得しているため、民間の最新の技術動向もふまえて、火山活動により変化した地形データ共有の仕組みを検討することが必要。

○火山活動により変化した地形データ共有の仕組みの検討結果をふまえ、調査・観測計画の共有等の実運用に向けて、関係省庁の連携をより強化していくことが重要。

○火口位置の推定には現地での目視情報も有効であり、気象庁は発見者通報の活用に向けた取組を推進することが重要。

以 上